

# 有題 無題

## 日本社会に広がるSDGs

先日、中西宏明経団連会長の記者会見をニュース番組で見て、驚いた。会場のバックパネルに「Society5.0」のロゴとともにSDGsのロゴが掲げられていたからだ。SDGsの実施が始まった2016年当時、日本での認知度はほぼ皆無。国、地方自治体、民間企業、市民社会、教育関係者、国連諸機関などさまざまなアクターが積極的に関与した結果、ここまでの広がりにつながったと感慨深かった。

### 国連広報センター所長 根本 かおる



ねもと・かおる 86年(昭61)東大法卒。同年テレビ朝日入社。米コロンビア大学大学院国際関係論修士修了。96年から国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)で難民支援活動に従事。世界食糧計画(WFP)広報官、国連UNHCR協会事務局長なども歴任。13年から現職。神戸市出身。

## 生活と結びつけ身近な存在に

外務省が共同制作した副教材『私たちがつくる持続可能な世界〜SDGsをナビにして〜』が全国の中学校に配布され始めている。

新聞などの報道でもSDGsの注目度が高まっている。国連とメディアとのSDGsに関する協力の枠組み「SDGメディア・コンパクト」が9月に国連本部で立ち上がった。30社以上の創設メンバーには、日本から日刊工業新聞を含め3社が

参加している。今後編集・放送内容にSDGsが反映されることに加え、社員・記者に対する研修の協力や国連の専門家の知見提供で連携が進むことが期待される。

例えば、昨年4月の沖縄の「島ぜんぶでおーきな祭」を皮切りに大規模なイベントの会場で吉本興業が実施している「そうだ！どんどんがんばろう」スタンプラリーがある。頭文字を並べるとSDGになる仕組みだが、

例えば、昨年4月の沖縄の「島ぜんぶでおーきな祭」を皮切りに大規模なイベントの会場で吉本興業が実施している「そうだ！どんどんがんばろう」スタンプラリーがある。頭文字を並べるとSDGになる仕組みだが、

人気芸人の顔をあしらった各ゴールのスタンプを台紙に17個全部集めると景品がもらえるというもの。すでに4万人の子どもや家族連れが楽しみながSDGsに接している。SDGsは身近なものとして参加者を巻き込む可能性を示してくれている。

SDGsの実施には、思いや関心を持った個人や組織が傍観者ではなく、プレーヤーとして参加できる。国連で採択された文書にありがちな「神棚に祭る」ものではなく、「自分事化して使っていく」ことが求めら

る。頭文字を並べるとSDGになる仕組みだが、

例えば、昨年4月の沖縄の「島ぜんぶでおーきな祭」を皮切りに大規模なイベントの会場で吉本興業が実施している「そうだ！どんどんがんばろう」スタンプラリーがある。頭文字を並べるとSDGになる仕組みだが、

来年、日本で気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第49回総会、G20サミット、アフリカ開発会議(AICAD)と大きな国際会議が続き、いずれもSDGsが主要議題になる。これら会議では、人々の暮らしに結びつけることを意識しながら発信していきたい。